

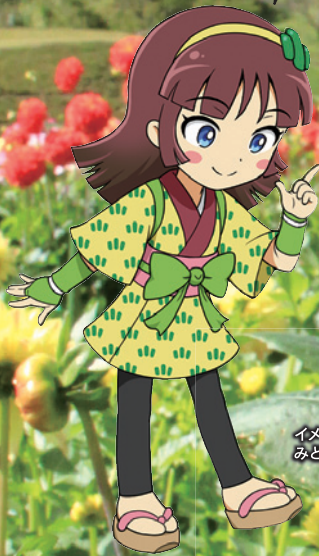
あきたの りょうりょう い かちと

VOL. 487
2015.10.25

「満開のダリアでお出迎え」

この時期見頃を迎える、秋田国際ダリア園。毎年新作が発表されており、ここで試験栽培された多くの品種が全国各地で生産・販売されています。

写真提供：鈴木 公英
(新城川土地改良区)



イメージキャラクター
みどりちゃん

CONTENT 1 第38回全国土地改良大会青森大会

CONTENT 2 要請活動 ～来年度予算増を目指して～



△挨拶する二階全土連会長

青森大会

全国土地改良事業団体連合会（二階俊博会長）と青森県土地改良事業団体連合会（野上憲幸会長）が主催する「第38回全国土地改良大会青森大会」が10月15日、青森市のマエダアリーナで開催された。全国から関係者約3,600人が参加。農業農村整備事業の重要性をアピールし、魅力ある農業・農村づくりを目指すとの大会宣言を採択した。

主催者挨拶で自民党総務会長を務める二階全土連会長は、「大筋合意に至ったTPP交渉は、日本の農業・農村に与える影響や対策について今後検討されることになるが、我々土地改良の立場からも積極的に関与し、皆さんの意見を踏まえながら政策を提言していきたい。基本は『闘う土地改良』である。最大限の取組を進め、成果を納めなければならない。現場で頑張っている農家の皆さんの期待に応えるべく、我々は一層努力し、闘い続けて参りたいと考えている」と述べた。

式典では、三村申吾青森県知事、伊東良孝農林水産副大臣の挨拶に続き、土地改良事業功績者表彰が行



▲4名の宣言者による大会宣言

われたほか、全国土地改良事業団体連合会会長会議顧問の進藤金日子氏を聞き手に、東日本大震災で被災した東北3県の土地改

良事業団体連合会専務理事を報告者としてパネルディスカッション形式の基調講演などが行われた。

また、「農業農村の礎である『水・土・里』を健全な姿で次世代へ引き継いでいく」との大会宣言の採択に続いて、次期開催県への大会旗引継ぎでは、青森県土連の野上会長から本会会長でもある高貝全土連副会長へ、そして次期開催県となる石川県土連の西村会長へと大会旗がそれぞれリレーされた。



▲高貝全土連副会長から石川県の西村会長へ大会旗引継

表彰

全国土地改良事業功績者表彰として秋田県関係者で次の方々が受賞されました。

農村振興局長表彰

畠山清俊
(比内町土地改良区理事長・秋田県土地連副会長)

全土連会長表彰

伊藤稔
(秋田県仙北平野土地改良区理事長)

目次

CONTENTS

第38回全国土地改良大会青森大会	2
要請活動～来年度予算増を目指して～	3
予算編成の流れ	3
平成28年度農業農村整備事業関係予算概算要求に関する説明会・意見交換会	4
水土里ネットのスキルアップ研修会	7
わくわく探訪inUGO	8
職員会「はさがけ」展示プロジェクト	10
水土里の野菜倶楽部～仁井田大根へのチャレンジ～	11
平成27年度土地改良関係団体役員講習会	11

ちよつと耳より知恵袋	12
特集：ようこそ土地改良区へ(山城水系土地改良区：太田剛史)	13
特集：随想(秋田市孫左衛門堰：石郷岡步)	14
農業水利施設内の「ゴミ」問題：稲川土地改良区(シリーズ)	14
特集：おらほの自慢っこ～来てけれ！鹿角市～(鹿角市産業部農林課：山崎孝人)	15
平成27年度秋田県土地改良事業推進大会、第138回秋田種苗交換会	15
水土里レポーターによる写真投稿(三種町浜口土地改良区：三浦英樹 土地連：菊地均)	16
リレー感想文「486号について」(由利本荘市土地改良区)	16
連合会日誌、会員だより、編集後記	16

要請活動

～来年度予算増を目指して～

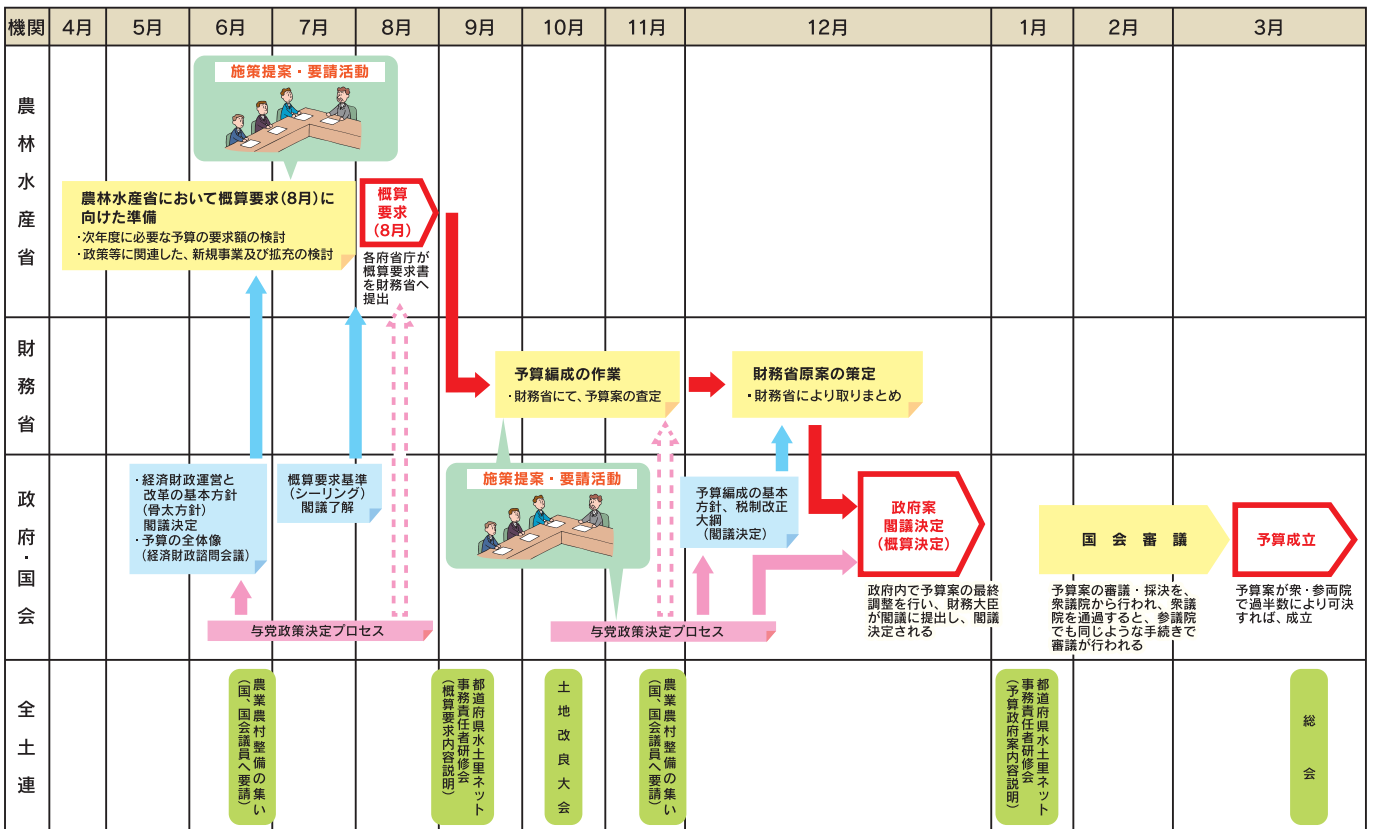
8月25日、自由民主党本部において、自由民主党農林水産戦略調査会・農林部会・農政推進協議会の合同会議が行われた。西川農林水産戦略調査会長、中川農林水産大臣政務官の挨拶の後、農林水産省荒川官房長などから、平成28年度の農林関係の概算要求などについて説明があり、「今回の概算要求で最重点となる農業農村整備事業関係では、今年度当初より1,000億円多い4,588億円を要求する」といった説明が行われた。その後、全土連を始めとする農林関連6団体から平成28年度農林関係予算について団体要請が行われ、全土連からは、本会会長でもある高貝副会長が要請を行った。要請内容の概要は次のとおり。



- 1 農業の競争力強化につながる水田の大区画化や汎用化、畑地かんがい等の農地の整備、国土強靱化の考え方に即した農業水利施設の保全整備、防災・災害対策など、安定的・計画的な事業執行のため、平成28年度農業農村整備事業当初予算において地元関係者が予算の回復が実感でき、地域の要望に十分応えられる規模を確保すること。
- 2 対応に遅れの出ている全国の現場から一日も早く強い農業の確立に取り組みたいとの声が多く寄せられており、緊急的な対策として年度内に対応可能な補正予算を編成するなど、追加的な予算措置を講ずること。

最後に、齋藤農林部会長から「国民の負託に応える農政実現のための農林関係予算大幅増額について」と題する決議案が説明され、全会一致で決議された。

予算編成の流れ



● 平成28年度農業農村整備事業関係予算概算要求に関する説明会・意見交換会 ●



▲挨拶をする高貝会長

10月7日と8日、北秋田市と秋田市で「平成28年度農業農村整備事業関係予算概算要求に関する説明会」が開かれ、国や県の職員、市町村の首長、職員、土地改良区の役職員など併せて250名が参加した。

8日、県庁第2庁舎で行われた説明会では、農林水産省農村振興局整備部地域整備課の桑原農村整備調査官は「ほ場整備をはじめとする予算要求の中、生産性向上の加速化、ソフトの定額助成・拡充も検討しており、予算確保に向けて皆様の要望が通るように努めていく」と挨拶を行い、本会の高貝会長も「安倍内閣では『攻めの農業改革』を目指し、3月に『食料・農業・農村基本計画』が閣議決定された。6月発表の『骨太の方針2015』では、はじめて『土地改良は』という文言も入り、ため池の防災・減災や基盤整備などの汎用化を一層推進していく

こととなっている。28年度の概算要求では前年度比1千億円増となっており、まさに『骨太の方針』のおかげであると思うので、引き続き予算獲得を目指して頑張ってもらいたい」と述べた。

その後、桑原農村整備調査官らによる農林水産予算概算要求の骨子や、とりわけ農地整備事業等の拡充・新規事業について資料を用いて説明が行われた。

質疑応答の場面では、ほ場整備事業や簡易な農地整備（区画拡大、暗渠排水）の加速化や予算増額を求める意見があり、これに対して秋田県農林水産部の瀧川参事は「予算を確保するためには現場の声が1番であるので、土地改良の必要性という声を上げてもらいたい。県としても、知事を先頭に政府・与党などへの要望活動を行い、また、事業要件等の情報を早めにとって、多くの予算を確保できるよう頑張りたい」と話した。

この他、下流に公共施設などがある「防災重点ため池」に関する質問については、農林水産省整備部防災課の神馬課長補佐は「ため池のハード・ソフト対策を積極的に推進できるよう予算確保に努めたい。なお、平成27年度から3か年に限り、廃止ため池の堤体をカットする工事に対して1,000万円までの定額助成が行われる。災害のリスクを出来るだけ減らすことが出来るよう、使用しないため池についても、この機会に見直しを行ってみたい」と参加者へ問いかけた。

その後、市町村の首長や土地改良区理事長等による意見交換会が行われ、その際には、ほ場整備の推進や日本型直接支払制度の継続に関する意見が多く寄せられた。



▲説明会の様子（県庁第2庁舎）



▲意見交換会の様子